

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム 愛の手 (2階ユニット)

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100030		
法人名	有限会社 ケアホーム愛の手		
事業所名	グループホーム愛の手 2階ユニット		
所在地	盛岡市青山1丁目19-51		
自己評価作成日	平成 24 年 2 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成 24年 5月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100030&amp;SCD=320&amp;PCD=03">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100030&amp;SCD=320&amp;PCD=03</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24年 3月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・季節感を出す展示物等で利用者の関心や話題を引き出す工夫をしている。
- ・体を動かしたり、手を使うなど日々のレクリエーションに力を入れている。
- ・室温の調整や清掃など清潔な環境を保つよう努めている。
- ・利用者のレベルにばらつきがでているので、個々の不安や混乱に対応し体調の変化を見落とさないよう努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、「生きがいと喜び」「不安のない明るい生活」の理念の下、コミュニケーションの潤う介護関係を念頭に、利用者のペースに合わせてゆったりした気持ちで接し、一人ひとりの思いに心を寄せながら穏やかで安心した暮らしを支援している。また、毎日の散歩での地域との挨拶の交し合い、地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、保育園との定期的な来訪等、ホームから積極的にアプローチして交流している。利用者の重度化に伴い、不安や混乱に対する心理的な反応や兆候等が懸念される中において、協力医や看護師の定期的な訪問による健康チェックや介助への指導助言を得ていることは、利用者、家族、職員の安心につながっている。今後も医療連携を背景に、個々に応じた健康の管理維持と共に看取りにも応え得る体制を継続し、信頼されて託された介護関係がマンネリ化に陥ることのないよう、本人の気持ちや家族の期待を踏まえ、暮らしの安楽と自立を助けられるようなケアの実践に努めたいとしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 愛の手 (2階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が安心して暮らすことができるように職員は努力している。	理念は玄関とリビングに大きく掲示されており、職員全員が利用者の身体的安全に気をつけつつ、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーにケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の回覧板を回していただいている。地区の行事などにはなるべく参加するようにしている(公民館のイベント・盆踊り・防災訓練など)	地域の公民館行事などには積極的に参加しながら交流を図っているほか、保育園児との交流、ボランティアや実習生等を受け入れるなど、地域との交流をひろげている。	「愛の手だより」も70号を越えていることからして、回覧板等を通じて情報を提供し、地域の一人としての役割意識やホームへの関心、理解につなげる働きかけが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徐々に地域の方々にホームの存在が浸透しつつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加率はよくないが会議は開催している。参加者の意見は参考にしている。	定期的な開催となっているが、運営報告のほかに参加者からの提案意見が少なく、テーマ設定や参加体制への見直しの時期に迫られている。今後、「アンケート」やテーマ設定による講話等、情報収集や外部知見者を導入するなどしながら活性化につなげたいとしている。	会議は地域の理解と支援を得る貴重な機会である。事業所の報告とともに問題提起や、相談などにより双方向的な会議になり、今後のサービスの向上に活かされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は電話やメールで行っている。	担当者に対して、運営相談やインフルエンザ情報、対応困難の相談、推進会議の議事録の提供のほか、研修開催等の情報を得ている。なお事務的なこと等はメールや電話で連絡や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという観念は全職員に浸透している。が現在はどうしてもエスケイプする利用者があるため、家族の希望もあり施錠している。	専門医に相談、助言も得ながら、聴きつくりの姿勢で同行するなど、家族、職員との話し合いを継続しながら粘り強い対応に努めている。なお、職員は外部、内部研修等を通じて身体拘束の弊害については共有されている。	専門医との相談、助言を継続しながら本人の改善を図ることはもとより、他の利用者、生活環境に配慮する対応策についての職員の意思の疎通を欠くことのないよう望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉がけに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々の知識の習得に任せている。関心のある職員は研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時点で説明をしている。説明後でも疑問に思うことや質問事項はいつでもお答えできるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が来所されたとき、管理者や職員は家族からお話を伺う機会がもてるよう努力している。	家族情報は、毎月の来訪時や電話で得ているほか、ミーティング等機会あるごとに管理者、職員で共有している。遠方の方には、暮らしや健康状況等について郵送で説明をしている。なお今後アンケートによる聞き取りを実施し、意向等の収集に努めたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月に1回程度のカンファレンスで職員の意見を聞くようにしている。実行できるものは試しに行ってみる時もある。	センター方式を導入しながら、本人を支えていくために「その人の何を知る」という記録やチェックへの一貫性が職員間の共有を容易にしていることもあって、話し合いや意見、提案が具体的で実施や改善を容易にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を改善し、職員のよりよい労働環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはマンツーマンで教えたり、実習生を多く受け入れることで職員の知識や技術の振り返りができる。 今年度は介護プログラムの方を受け入れた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度のグループホーム協会定例会に出席している。今年度はいろいろな職員が出席した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日ごろからコミュニケーションを多くとり思いを聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来所するたびにお話を伺い、利用者ガホームで生活が快適に過ごす事ができるように支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネージャーや病院のケースワーカーや看護師の情報を参考に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に尊厳の気持ちを大切に人生の先輩として一つ屋根の下でともに生きるという意識を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には経過説明をし、協力していただけることはお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅がホームに移ったという感覚で気軽にお客様をお迎えしている。	重度化に伴い墓参や生家めぐりで親戚や近隣の方々との再会が難しくなり、電話や文通支援でないでいるほか、菜園作りを手伝っていただいたり、花や野菜を届けてくれる方との馴染みも強くなってきていることから、馴染みの方や場所への継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内は開放的でいつでも誰とでも交流できる環境にある。1階と2階も分け隔てなく行き来をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、相談ごとなどお受けすることを伝えている。遊びに来るもと利用者もいらっしやる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やコミュニケーションを多くとることで利用者の思いや意向をきくようにしている。また会話が困難な方にはしぐさや動作から思いを察するように努力している。	一人ひとりを大切にし、安心や誇りにつながるような声がけや対応をし、本人のいいところ、出来ているところ、その人らしさを見つけ、自信につなげるよう働きかけをしている。把握困難者には本人の立場になり思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中での利用者との会話や家族からお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の観察を怠らず、記録すべきことは記録し職員全員が情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望およびし申し送りやカンファレンスなどから各利用者に即した支援をし、なおかつ職員の負担の少ない援助を検討している。	センター方式を導入しながら、定期的なモニタリングで「出来ていること・出来ないこと」等の記録から、見落とされやすい力や行動を引き出すような支援等について吟味するなど、その意見やアイデアをプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況は毎日経時的にチャートに記録し誰が見てもすぐわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のレベルにばらつきがでてきているため個々の状況に合わせた支援を行っている。 (食事・タイムスケジュール等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の健康診断や予防接種助成などを利用し、健康管理にいかしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人や家族の意向により決めている ホームの協力医は月に1度訪問診療をして下さる。	本人、家族の希望する主治医がおり、通院受診には看護職員が同行し、症状等の情報を提供し、結果については家族、ホームで共有しているほか、定期的に協力医と看護師の訪問があり、利用者一人ひとりの安心が身近に感じられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2度の訪問看護を受けている。訪問時はもちろんのこと、ふだんから気軽に健康相談などできる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が同行し病院への情報提供をしている。入院中は職員が訪問し入院中の情報はすぐに伝わるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族が希望すればホームで看取りを行っている。協力医の訪問もあり、家族・協力医・ホームと連携しながら利用者・家族が満足できるようホームは努力している。	終末ケアに取り組んでおり、現在も「終末ケアをホームで」と希望されている方もいるが、あくまでも本人家族の方向性を慎重に検討しながら、段階的に話し合いを進めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の教本を常備している。 応急手当の講習会に参加している者もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。 地域の防災訓練に参加している。	昨年スプリンクラーが設置され、改めてその作動における対処法、消火器配置の見直しやAEDなどの操作研修を終え、現在地震対策と2階利用者の救援などについて検討されている。地域住民との協力支援が課題となっている。	空きアパートや共働きの住宅地にある環境等を考えるとき、運営推進会議で、周辺状況に対する消防署員等からの助言や講話等の機会を設定し、環境実態に対する状況を共有することが大切と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に尊厳の気持ちを持ち利用者と接している。指示や否定をしないのはもちろんのこと、入室や介助を行なう際にも利用者から同意のもと行っている。	「安心と尊厳」は運営の基本であり、利用者の言動には伺いで反応を引き出し、話しかけには傾聴し、トイレ誘導や入浴支援に当たっては羞恥心に配慮した言葉かけを徹底しており、対応等での気づきは相互に話し合いながら一人ひとりの「誇り・安心」につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いを聞くことができるよう語いを大切にしている。できるだけ自分で決めてもらうよう言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課はあるが個人のペース・意思を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気温に合わせた服を用意し、その中から利用者が好みのものを着るようにしている。汚れた服はすぐに着替えるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備はみんなで行っている。配膳やあと片付け等は職員と一緒にしている。	利用者個々の状況に応じた栄養管理と支援を行っており、調理の準備や配膳、盛り付けなど、利用者の力を活かし、旬や自作農園収穫食材を話題にするなど、楽しく食べられるような言葉かけや働きかけがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食形態や量に配慮している。水分・食事摂取量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声かけをし、できない方にはそばについて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄ができるよう支援している オムツよりリハビリパンツ、リハビリパンツより布パンツへと移行できるよう支援している。	入居時は紙パンツが多かったが、自立とトイレ排泄を目指し、チェックシートの活用、適時の声かけや誘導による支援で、歩行の不自由な方がトイレで排泄できるまでに回復したほか、布パンツへの移行が自立、安心、心地よさ、尿意の伝達にもつながる等の相乗効果として表れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便パターンを知り食品を工夫したり腹部マッサージを施行したりしている。やむをえず下剤を用いるときも最小限にするようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は設定しているが1階と2階で別々に実施しているので無理強いはいしない。本人の意向も大切にしているが言葉がけにも工夫をしている。	週2回午後2時～4時の入浴を実施し、誘導や着脱、洗身、洗髪、浴槽への出入り等、不安や羞恥心に配慮するほか、皮膚の観察や移動・起居能力等の評価やコミュニケーションの良い機会として有効なケアに結びついている。なお家族の自主的な介助入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中だから寝てはいけないなどの観念はなく、好きなときに休んでもいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとに薬の説明書をファイルしている。確実に服薬できているか二重チェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作活動や運動などマンネリ化しないようにレクリエーションを工夫している。気候のよいときにはできるだけ外に出る機会を多くするようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車いすの方も戸外に出かける機会を多く持つようにしている。利用者のレベルや希望により個別対応をしている	周辺の道路事情も良いことから、車椅子の方の外出支援に力を入れており、近くの公園やスーパーでの買物等で、出かける意欲や楽しみにつなげる機会としている。季節ごとの観光ドライブを実施しており、御所湖、小岩井、リンゴ狩り等、時には外食を楽しんだりなど工夫を凝らした支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金の所持は必要ないが、小額を所持することで安心できる方は、家族の了解のもと本人所持をしている。 外出して買物をする機会があれば支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知り合いからの電話はいつでもお取次ぎをしている。手紙やはがきも本人の希望があれば準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに展示物を変え季節感を出している。 空気清浄機を完備している。 乾燥には気をつけ霧吹きをしたりする。 夜間も常備灯をつけている。	新聞や図書コーナーのほか、畳の小上がりにはひな人形、リビングも3月の季節を彩る手作り作品等が飾られ、吹き抜けの天井からの採光もよい。エレベーターで2階との交流も自由に行われており、気の向くままに会話、テレビを楽しんだりなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室にはいつでも出入りができる。 共有スペースには和室やソファがあり、いつでも気軽に休む事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が希望されるものは持ち込む事ができる。(人形・ラジカセ・仏壇・ソファなど)	使い慣れた整理ダンス、ラジカセなどのほか、家族写真、人形などがあり、明るさや空調ともよく管理され、ADLや安全性に配慮した配置など、その人らしさのある居室となっており、仏壇を持ち込んでいる方もいる。居室は中が見えない状態でオープンにしてあり、ご近所の雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを完備している。 物の置き場所など配慮しできるだけ広い空間を作るようにしている。		